夕刊　讀賣新聞　第31601号　（第三種郵便物認可）

読売新聞（夕刊）
昭和39年（1964年）10月1日

五輪の10月　新幹線、笑顔のスタート

満員、興奮の初乗り

大阪では花火の出迎え

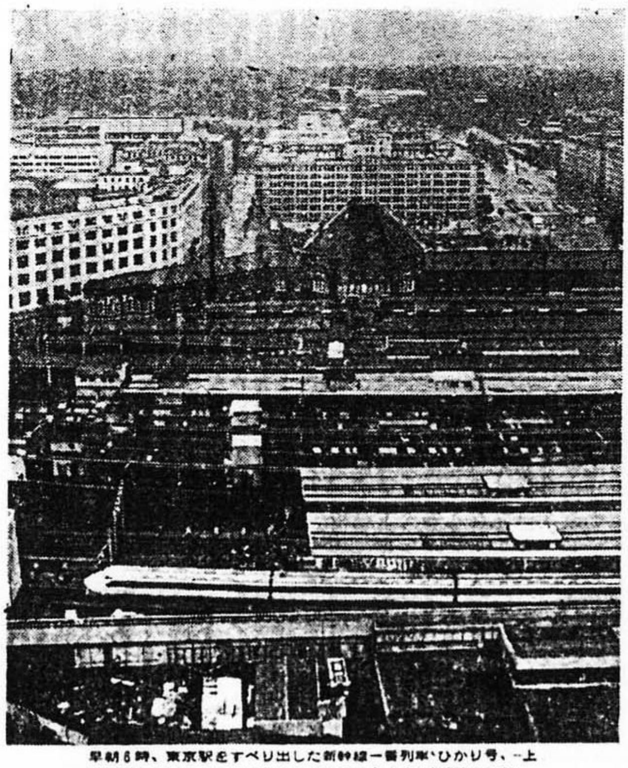
スマートなツートン・カラーの超特急"ひかり一号"は、一日午前六時きっかり、東京駅新幹線十九番線ホームを、一路新大阪に向けすべるようにスタートした。手をふりながら見送る東都知事はじめ、ホームいっぱいにあふれた人たちの歓声をホームに残して…。十二両連結の車両は、初の新幹線切符を持った人たちでほぼ満員、ほとんどが旅行のためというより、新幹線の初列車に、とにかく乗ってみたかったという人たち。なかには一人で同列車の切符を二枚も三枚も持っている"鉄道マニア"もいた。（羽鳥記者）

〇…発車まもない車外をみると、有楽町から新橋にかけての高速道路には、早朝なのに[illegible]一号車を見ようとする人たちで、ずらっといっぱい。なかには手をふってスタートを祝福する人もいる。さらに都外へ出ると、沿線の畑のなか、農家の庭先からも、早起きの人たちが、手をふって疾走する列車を見送っていた。

〇…注目の一列車一号車一番A席の"四冠王切符"を、発売三日前からすわりこんで手に入れた横浜市港北区大曽町九ノ六、日本旅行会横浜営業所員増井昭さん（[illegible]）が、この日ホームに現われたのは発車直前。すぐ待ち構えていた報道陣にとりまかれた増井さんは、一号車のほか、六号車にも席をとっているほどのマニア。しかし「乗りごこちは」という質問にも「そんなことより、この一A席をとれたほうのうれしさがいっぱいで…」とやや興奮気味。

〇…[illegible]などのあたりか、スピードがぐんぐん上がってきた。テスト区間でおなじみの[illegible]では、この日の最高時速[illegible]に達した。車内がざわつく。「車の音がちょっと耳に響くが、ゆれかたはまあまあですな」というのが、ほとんどの人の声。

〇…早朝の出発で、朝食をたべずに出てきた人が多いせいか、ビュッフェは発車と同時に満員。富士山の見える窓に陣取ってなかにはビールをのみながら「二百キロの[illegible]ごこち…」とエツに入ってい[illegible]


早朝6時、東京駅をすべり出した新幹線一番列車"ひかり号"、一上方は丸の内ビル街、その上の森は皇居（よみうり113号機から）

〇…[illegible]名古屋[illegible]間で上り列車とすれ違った。ほんとうにあっという間もない。すれ違い風景を乗客につたえようと、あわててカメラをかまえた乗客もシャッターを切る間がないほどだった。

〇…[illegible]た乗客や[illegible]も[illegible]出発のときとちがって日本晴れ。「すべて祭りのち晴れ」。一乗客はこうつぶやいていたが、この日の「ひかり一号」のすべてを語っていたようだ。

車窓に富士を見ながらビュッフェで食事をする乗客たち

暗いうちから人波

けさの東京駅　感無量の十河さん

〇…「ひかり一号」の"門出"は、明けきらぬ夜のとばりのなかではじまった。午前五時前からタクシーを乗りつける乗客が引きもきらない。みんな期待と興奮で上気気味。中央コンコース（通路）に、徹夜でつくりあげた「ひかり」を象徴する銀色のイナズマの飾りつけ。それにこの朝、店開きした新幹線専用のステンレスの改札口が、明るい電光にはえてひときわ美しい。

〇…出発定時が迫るにつれて、ホームは、見送りや、新幹線のスタートの瞬間をこの目で確かめようという鉄道マニアでいっぱい。赤い羽根をつけた人、日の丸の小旗を手にした親子連れ、カメラを三つもぶらさげた高校生、[illegible]番ホームも人がき。そして[illegible]に[illegible]の国鉄関係者…。

〇…両陛下をおむかえしての開業式典では、前総裁の十河さんが[illegible]陛下のお言葉にじっと目をとじて聞き入る。新幹線建設に功績があったと、天皇陛下から銀杯一組みを贈られることになった十河さんは、また目をしばたたく。涙もろい性質だっただけに、大きな感動のうねりにこらえかねているのかもしれない。あるいは、新幹線計画当初の、さまざまな苦労の思い出を、この[illegible]を迎えてなつかしく反すうしているのだろうか。生涯最良の日の喜びをこらえかねる十河さんの表情だった。